

# 地域性ある図書館に

## 情報発信や育児支援も

### 報告書 あり方に 報告書

今後の図書館サービスの方向性などについて「横浜市立図書館のあり方懇談会」(座長・高山正也国立公文書館理事、十一人)が報告書をまとめ、押尾賢一教育長に提出した。報告書では「市民力と創造力を生かした横浜型モデル」の構築を提言している。

報告書では、図書館の「個性ある図書館づくり」役割について「本の貸し」を指すべきとして、「借り」の機能にとどめる。地域子育て支援拠点ことなく、地域情報を発信する拠点化や、課題解決機能の強化の必要性を強調。子育て世代の多い若い区、外国人の多い区など、区の特徴を生かす

り方についても検討課題に挙げている。

市立図書館は、中央図書館を含め計十八館あり、市教委によると蔵書数は二〇〇六年度末現在、計約三百八十五万冊で政令市最多。個人貸し出しは年間約千八百八十八万冊に上る。

市教委は提言を受け、より市民に愛される図書館にしていきたい」と話している。

また、多様な豊富な人々を含め、運営体制のあり方についても検討課題に挙げている。

### 横浜市中央図書館 バックヤードツアー

## 舞台裏が面白い!

12日から募集

市民に図書館の裏側を知ってもらおうと横浜市中央図書館(横浜西区)が開いている「バックヤードツアー」が好評だ。昨年始まった企画だが申し込みが殺到する盛況ぶりです。今年も3月22日に開くことになった。

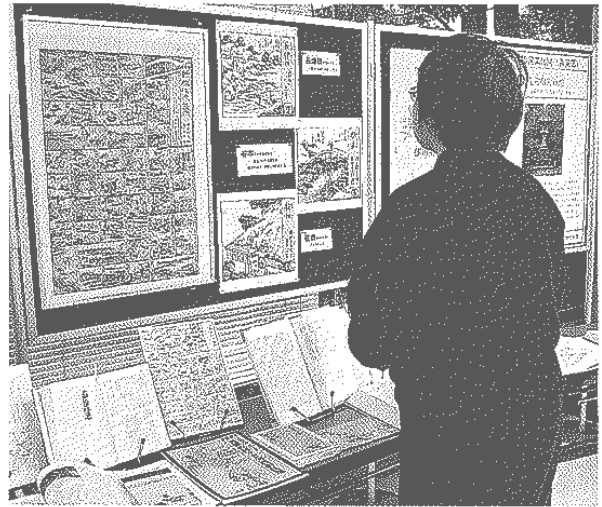
同図書館は約150万冊を蔵書する全国有数の規模。ツアーでは普段は入れない地下3階分の書庫に加え、蔵書を選定する部屋や配送などの事務ゾーンを見ることが出来る。館内で本を運ぶトレベーターも見ものだ。昨年は予想以上に参加希望者が集まり、当初予定の3倍の180人の市民が参加した。同図書館の佃一可調査資料課長は「以前は資料の保存のため湿度管理の問題もあり裏側に市民が立ち入るのを敬遠していたが、図書館全体を理解してもらった方が上手に利用してもらえる」と企画の狙いを語る。



バックヤードツアーでは蔵書を選定する部屋も見ることが出来る。横浜市中央図書館で

館(045・262・0050)の「バックヤード見学会」担当まで。【野口由紀/写真も】

午後1時半〜午後3時の2回。中学生以上で各回定員30人。12日から申し込みを受け付ける。申し込みは同図書館(045・262・0050)の「バックヤード見学会」担当まで。



北斎画という街道双六が目玉の一つ(写真左)

## 往時の街道をしのぶ

### 山内図書館で大山街道展

山内図書館(あざみ野2丁目)では現在、『青葉区の大山街道』をテーマに企画展示が行われている。期間中は、市内の全図書館(18館)から集められた大山街道に関する記述のある約70点の書籍を中心に、パネルなどが展示されている。閲覧無料。

区内では国道246号線と大部分が重複する大山街道は、赤坂御門を起点とし駿河(静岡県東部)へといたった街道で、当時の荏田町はその宿場町としても栄えた。古明地和郎館長は「地域の歴史に関するイベントは好評を頂いております」と話す。

『毎日新聞』2007年(平成19年)8月7日(火)

### 区制80周年記念 鶴見線パネル展

鶴見図書館

鶴見図書館(横浜市鶴見区、中沢誠館長)で、区制80周年記念のパネル展「鶴見線ものがたり」が31日まで開催中だ。写真。

鶴見線は京浜工業地帯の生みの親・浅野総一郎

が初代社長の「鶴見臨港鉄道」として、1926年に貨物で営業開始。戦時に国鉄に買収され、87年に国鉄民営化でJR東日本「鶴見線」となって現在に至る。

廃止された本山駅など大正、昭和当時の貴重な写真、年表や地図が展示されている。鉄道マニアには「鶴見線物語」など本・資料も貸し出されて

いる。旧国鉄OBの林正己さん(79)「同区仲通は「戦時中も軍事工場に通う工員で満員電車だった。鶴見空襲(45年4月15日)で米軍機に爆撃され、車両が燃えた」と当時を振り返った。

【網谷利一郎、写真も】



今回の企画展では、葛飾北斎画といわれる大山街道双六の複写が目玉の一つ。「当時の街道の様子がしのべれます」と古明地館長。展示は来月2日(日)まで。また、最終日には横浜市歴史博物館の学芸員・斉藤可さんが講師となり、大山街道にまつわる講演会が行わ

れる。14時~16時、入場無料。

電話(☎)045・901

・1225、またはメー

ル ☒ky-libgyoji13

@city.yokohama.jp

山内図書館カウンター

のいずれかで申込みを。

先着30人まで。

# 宿場町から現代まで

神奈川県立図書館 区内産業の変遷を紹介

懐かしのラベル、ポスターも

横浜市神奈川区の産業の歴史をたどる展示会が、神奈川県立図書館(同区立町)で開かれている。二十八日まで。



同図書館開館二十周年「代へ」と題した。明治から区制八十周年の記念事業から現代にかけての農業・商業・漁業など、同区の

産業の移り変わりを時代順にパネルや写真で紹介。郷土書も置かれ、貸し出しもしている。

一八九六年に子安村(同区子安)で日本初のトマトケチャップを製造したといわれる清水屋の創業当時のラベルや、同区橋本町二丁目に本社を構える食用油の老舗「岩井の胡麻油」の昭和期のポスターなど、懐かしい資料が並ぶ。

二十七日には、安藤広重の浮世絵にも描かれた幕末から続く料亭田中家(旧さくらや)の五代目女将平塚あけみさんを招き、東海道の宿場町として栄えた同区を紹介する講演会も行われる。問い合わせは、同図書館 ☎045(434)4339。

明治から現代にかけての資料が並ぶ会場  
— 神奈川県立図書館

## きちんと借りて きれいに返して



9日まで  
読書週間

▲「本が泣いています」で展示された本。若の写眞絵本はページの上半分の写眞が切り取られています

写眞を切り取られた写眞絵本、ベットのくんだ跡が付いた本、水にぬれてよれてしまった文庫本。図書館で貸し出した本が傷ついて返ってくる被害が後を絶ちません。むしろ増えているという指摘もあります。九日まで読書週

間です。みなさんは、利用マナーを守っていますか？ 神奈川県横浜市では十月、傷ついた本を展示する「特別展示 本が泣いています」を市立図書館全十八館で開催しました。昨年に続き二回目。市立保土ヶ谷図書館の富田

勝館長は「ここ五、六年、被害が増えていると実感します。傷ついた本は毎月、十冊ほどになります」と嘆いています。「一番多いのは索引きや書き込み」と司書の横内知悦さん。鉛筆の場合は本を傷めないように滑しゴムで滑しますが、ボールペンなどは消すことができません。ガムが張り付いた本もありました。傷つけられた本は、できるだけ修理して、利用しています。ページが切り取られた本は、ほかの市立図書館にある同じ本をコピーして、切り取られた場所に張り付けます。修理できないほどひどい場合は捨てられてしまい、図書館は同じ本を買うことになります。図書館の本は税金で買った、みんなのもの。借りる手続をせず、本を無断で持ち出すケースも増えているといえます。富田館長は「きちんと借りて、きれいに返して」と利用者のマナー向上を願っています。【篠口純子】